

道中記・定宿帳にみる近世大和の宿場と宿屋

鎌田道隆
安田真紀子

近世中後期の庶民世界における旅の盛行、とくに社寺参詣や観光の旅の普及の背景に、街道や街道施設の発達があったことは、周知のこととされる。しかし、鉄道が発達して歩く旅が急減したことから、近代の再開発によって、旧街道や宿場・宿屋などの交通史跡もその景観を変え、またまったく姿を消してしまうかという状況にある。近世の庶民の旅や観光産業などの復元研究が、ほとんど着手されてさえいないという現状のなかでは、たくましく近代社会の夜明けをきり開いてきた民衆の歴史の貴重な史料が、その価値を検討されることもなく、葬り去られることになる。

かつて、文化庁が中心となって、古い街道や河川などの交通関係の遺跡を、周囲の環境も含めて総合的・体系的に調査・把握して、国民が歴史に親しむ一助にしたいと、各都道府県ごとに『歴史の道調査報告書』の作成をすすめたことがあって、昭和五十年代にはその成果が徐々にまとめられた。しかし、この『歴史の道調査報告書』は、その成果の公刊のしかたやその後の継続的な地域事業への展開に限界があ

り、歴史の道を国民生活に結びつけるというよりも、調査の終了というかたちを強く印象づけ、むしろ開発のための記録保存の役割になったようにさえ見える。

いっぽう、高度経済成長の破綻と環境問題や健康への関心のたかまり、そして町おこし村おこしとして歴史街道への注目など、まだまだ一部ではあるが、歩くことについて新しい視点から位置づけの動きもある。

平成十年度に、奈良大学総合研究所の研究助成をうけて、「近世大和に関する道中記・定宿帳に見える宿駅・宿屋の研究」をすすめた。これは、江戸時代後期から明治期にかけて数多く出版され、庶民の旅の実用的案内書であった道中記や定宿帳を調査してみることで、すでに廃絶し、人々の記憶から消えてしまった基礎的な旅のデータを検証できるのではないかと考えたからである。もちろん、定宿帳等に見える宿場や宿屋は、街道におけるすべての宿場や宿屋を網羅したものではない。特定の講組織のなかで契

約されている限定された宿場と宿屋にすぎない。しかし、それらはいくつか重ねてみると、それぞれの時代と地域の代表的な街道施設であったことはわかる。

近世の大和を中心とした街道・宿場・宿屋に関するデータを、道中記・定宿帳類から渉猟しはじめてみたが、平成八年から今井金吾氏編『道中記集成』四十四巻（大空社刊）が刊行されたことと、天理大学附属天理参考館交通文化資料室および財団法人物流博物館の協力を得て、所蔵史料の閲覧と撮影をさせていただいたことで、いくつかの貴重なデータを収集することができた。あらためて、関係機関へお礼を申しあげる。

道中記や定宿帳は、単なる地誌的案内書ではなく、実際に旅行者が利用することを前提として作成されたもので、街道毎の人の動きを示したものともいえる。したがって、同じ街道でも東から西へ向うか、西から東へ向うかで、編集のスタイルも記載内容も異なるといってよい。大和を事例とした場合、江戸を中心とした東日本の講組織などの場合、伊勢参宮のち大和を経て大坂へ向う例があるが、大坂を中心とした浪花講などでは、大坂から大和を経て伊勢へ向うことが多い。しかし浪花講でも逆まわりで参詣順路を設けた例もあり、それぞれの道中記・定宿帳はそうした人の動きを考慮したコース設定をしている。本稿では、大和の主要な旅のコースをとりあげ、コース毎にいくつかの年代や講による差異などをかさねてみてデータを提供してみようと

したので、逆まわりの事例は比較が繁雑となるので割愛した。

また紙数の関係で、大和の諸街道のうち、収集した史料にもっとも多く設定されていた旅のコースとして、次のものについて掲出してみたい。もちろん、旅のコースであるから、大和国内に限定せず、出発地から目的地までを収録するようにつとめた。

○大坂から暗峠をこえて奈良に入り、上街道・長谷道を経て萩原へ出る。ここで青越で松坂から伊勢へ出るコースと、伊勢本街道から田丸を経て伊勢への伊勢まいりの二つのコース。


○奈良から郡山、当麻、高田、八木、飛鳥、多武峰、上市、吉野、そして土田、三在、五条などの大和の名所をめぐる、橋本から高野山へ詣でるコース。

○大坂から河内まわりで、竹内、新庄、御所から吉野、大峰山をまわって高野山詣りのコース。

大瀬	暗峠	豊浦	松原	高井田	深江	玉造	宿場		出典
							地名	街道名	
大瀬	追分へ二リ くらがり峠	豊浦	松原 峠へ五十丁	高井田	ふか江	松原へ三リ 玉造り	田丸越	『いせ道中記』(第箋) 文化十二年三月序 (天理参考館文化資料室蔵)	みどり譚
	五十丁 闌り峠	豊浦	松原	高井田		玉造	大坂よりいせ道中	『浪華講道中記』(内題) 天保八年十一月改正 (奈良大学文学部史学科蔵)	浪花譚
	くらがり峠	とよら	まつ原	高みだ		玉造	大坂 より伊勢参宮道	『浪花講定宿帳』(表紙) 嘉永五年改正大増補 (『道中記集成』第四一巻所収)	浪花譚
	ニリ	十四丁	ニリ	三リ					
	宿 大和や長右衛門	休 まつや善七	宿 兵庫や八兵衛	休 ふぢや嘉兵衛		宿 四季や伊兵衛			

大阪から奈良・伊勢道

凡例

- 史料中のウイ○●の印は、原本によった。
- ウ||宿屋、イ||休所、ウイ||宿屋・休所、○||休所、●||宿休所をあらわす。
- 史料中の  部分は原本の墨刷抹消を示した。
- 宿場ごとの……線は、表を見やすくするため便宜的に使用した。宿場名のない空欄は原本に記載のないことを示す。
- 名所や堂宇についての説明文などは表中から省略した。
- 宿場・宿屋・里程などの記載は原本のままとした。

慈恩寺	三輪	柳本	丹波市	(在原) 本	帯解	奈良	尼ヶ丘	追分	榎ノ木峠	『いせ道中記』
追分	はせへニリ みわ	柳本	みわへニリ 丹波市	市の本	丹波市へニリ おびとけ	同 なら	尼が辻	ならへニリ 追分		
魚や吉兵衛	竹田や甚七	さるや庄右衛門	扇や庄兵衛	角や藤九郎	橋や小四郎	さる沢の池より南 かまや喜八	角や八郎兵衛	角や善九郎		
リ	二	一	一	一	一	二		二		『浪華講道中記』
追分	此所よりたふのみねへ五十丁	みわ	柳本	たんば市	あり原	おびとけ	奈良	追分	むろ木峠	
イ		ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	イ	ウ	イ	
柳や又五郎	うたか田や勘兵衛	猿や庄右衛門	吉のや弥市	角や藤九郎	橋や小四郎	小刀や善助	こぶや吉兵衛	角や善九郎	つちや清八	
ちおんじ	三輪	柳本	たんば市	在ハ	帯とき	なら	あまが辻	追分	むろ木	『浪花講定宿帳』
	一	一	一	一	一		二			
宿	宿	宿	宿	宿	宿	宿	宿	宿	宿	
	竹田や甚介	さるや庄右衛門	よし			小刀や善助	こぶや吉兵衛	角や善九郎	つちや清八	
	高田や勘兵衛					印判や庄右衛門				
	これより多武の峯へ五十丁									

あを越え道

新田	追分	名張	坂之下	鹿高	三本松	山辺	街道名	萩原	吉隠	初瀬	
あをへり八丁 新田	追分	新田へり半 名張		かたか	名張へり半 三本松	三本松へり 山辺	青越	あかばねへり半 はいばら 田丸越青越立石あり		はいばらへり半 はせ	『いせ道中記』
柗屋孫市	伊賀清蔵	天川や藤蔵		あづまや利兵衛	橋や文次郎	かぢや伊兵衛				うたや清七	
新田	半り一五 上野	名バリ	八丁	二り かたか	二り半 三本松		大坂よりいせ道中	五十丁 はい原		長谷	『浪華講道中記』
ウ	本町 まつや権兵衛 同丁 車や源吉	ウ 丁田や武兵衛 大竹や助三郎		イ 井筒や利兵衛	ウ ぬしや藤右衛門			ウ あはや孫三郎 右かいさかごへ		ウ 木や治郎兵衛	
新でん		なバリ		かたか	三本松		大坂よりいせ参宮道	灰原		はせ	『浪花講定宿帳』
					一り 十二丁				一り半		
宿 井つみや孫左衛門		宿 小竹や喜兵衛 宿 まち田や武兵衛		宿 油や文七	宿 ぬしや藤右衛門			宿 あはや孫三郎 郎兵衛		宿 よしのや平左衛門 宿 木や次郎兵衛	

	七見峠	阿保	伊勢路	青山峠	垣内	中ノ村	二本木	大仰	田尻	八太	小川	六軒
『いせ道中記』	七見峠 平や与兵衛	いせちへーリ あを 森や久兵衛	かいどへーリ いせち 紅葉や武左衛門	あを山 同 三軒や又四郎 いせ茶や丹次	二本木へーリ かいど 大和や孫左衛門	中の村 大坂や清次	はたへーリ 二本木 徳田や平兵衛	大の木 つたや兵左衛門		六けんへーリ はた 万屋利兵衛		六けん 大つや喜右衛門
『浪華講道中記』		一り半 あを ウ 森本久兵衛	三十丁 いせ地 ウ 大坂や文蔵	三峠 イ いか茶や三右衛門 イ いせ茶や丹治	垣外 ウ いがや吉兵衛		七十二丁 二本松 ウ 増田や久兵衛	一り半 大の木 ウ あぶらや新七		一り はた ウ 万や利兵衛	一り 小川 ウ おのや才兵衛	一り 六軒茶や ウ 小津や喜右衛門
『浪花講定宿帳』		あは 宿 もり本久兵衛 宿 たはらや饒左衛門	いせち 宿 大和や半左衛門	峠峠 宿 いか茶や三右衛門 宿 いせ茶や丹治	かいと 宿 伊賀や吉兵衛		二本木 宿 ましたや久右衛門	大の木 宿 あぶらや新七		はた 宿 万や利兵衛	小川 宿 おのや才兵衛	六けん 常宿なし 是より本かいだう
		一り	三り			二り	一り		一り	一り	一り	

堤世古	中川原	小侯	新茶屋	明星	金剛坂	稲木	櫛田	伊賀町	徳和坂	松阪	街道名	
堤せこ	中川原	おばた	おばたへーリ半 新茶や	明星		いなぎ	同川東			松坂 くしたへーリ半 同 同 藤や弥十郎		『いせ道中記』
	らうそくや三郎右衛門	川ばたや藤兵衛	秋田や浅右衛門	三田や三郎兵衛		釜や長兵衛	川口や忠兵衛			舟橋や吉郎左衛門 大和や与兵衛		
半リー		おばた		リニ			くし田	リニ		松坂	東海道関より山田道	『浪華講道中記』
山田入口つゝみイ松坂や三右衛門		浪花組荷物飛脚		金剛坂			ウもみぢや九郎兵衛	伊が町		日の町 商人ウ 同丁 ウ	大石や喜兵衛 大黒や卯兵衛	
		ウあふみや三郎兵衛		イ嶋村弥三右衛門				イ若松やかん				
宮川	山田入口	小バた			こんがう坂		くした	いか町		松坂	京より伊勢参宮道	『浪花講定宿帳』
	堤				ニリ					一リ		
		宿野呂久兵衛 宿小林重兵衛			休しま村弥三右衛門		宿もちや九兵衛	休おやきや		宿大石や喜兵衛		
	これより田丸こへなら道											

伊勢本街道(田丸越え)										
街道名	萩原	赤壇	石割峠	田口	山粕峠	山粕	宇治(内宮)	間の山	山田(外宮)	
田丸越		田口へ一リ半 あかばね	石割峠	山かすへ一リ半 田口	山粕峠	もとのまたへ一リ 山かす	今在家	中の地藏	外宮御師	『いせ道中記』
	(大坂よりいせ道中の項に記載あり)	松坂や権八	清水や市蔵	亀屋新五郎	かぎや庄七	松屋善助	岡田や磯右衛門	徳田や庄次郎	松葉七郎太夫	
はい原よりいせまで				はい原より三リ半 田口			内宮御師岩本太夫	十五丁 相の山	山田 七ッ町 商人ウ 広小路 ウ 浪花組荷物飛脚	『浪華講道中記』
はい原より		赤バね		田口		山かす		相の山	山田	『浪花講定宿帳』
伊勢本街道田丸越										
		宿 松本重蔵		宿 たまや源蔵		宿 あら物や左吉	内宮御師岩本太夫	休 内田や喜右衛門	宿 あり瀧や喜右衛門 宿 桔梗や太郎兵衛 外宮御師成子大夫	
		宿 あはや孫三郎 宿 あぶらや三郎兵衛 右いせ本街道田丸こへ 左いか越道								

津留	大石	仁柿	櫃坂峠	多気	銅坂峠	奥津	石名原	神末	菅野	桜峠	桃俣	
相可へーリ半 つる	つるへーリ半 大石 川あり	大石へーリ にがき	ひつ坂峠	にがきへーリ たげ	かい坂峠	たげへーリ おきつ	おきつへーリ 石なハラ	石なハラへーリ半 かうすへ	かうすえへーリ半 すがの	桜峠	すがのへーリ半 もゝのまた	『いせ道中記』
千北や惣兵衛	松屋半右衛門	大もんじや善兵衛	中村や文次郎	三木六左衛門	池田や清吉	ゐづゝや吉次郎	中子九右衛門	高田や久次郎	ゐづゝや庄右衛門	山城や松右衛門	いせや甚右衛門	
	ニリ 大石 右わか山ミち	ニリ にがき		一リ半 たげ			ニリ 石なハラ	▲大和 いせ	ニリ すがの		ニリ もゝの股	『浪華講道中記』
	ウ 銭や徳右衛門	ウ 大文字や善兵衛		ウ 高橋十左衛門			ウ 中子九右衛門		ウ いづゝや庄右衛門		ウ いせや甚右衛門	
つる	大石	にがき		たけ		おきつ	石な原	かうすへ	すがの		もゝの又	『浪花講定宿帳』
一リ半	一リ半	一リ半	ニリ	ニリ			▲やまと いせ	一リ	一リ	一リ半		
宿 せんはくや宗兵衛	宿 まつや半右衛門	宿 をはりや新七 ふじや傳七		宿 かめや善蔵		宿 山本や忠三郎 中北や由兵衛	宿 さかひ	宿 今西宗右衛門	宿 いつゝや庄右衛門		宿 辻源兵衛	

字 (内宮)	山 (外宮)	川	田	池	相	『いせ道中記』
		端	丸	上	可	
	外宮御師	外宮へ半リ 川ばた ミヤ川舟わたし	川ばたへ一リ 田丸	いけべ	田丸へ三リ 相可	柏屋佐吉
	松葉七郎太夫	あをや忠五郎	扇や専助	平四郎茶や		
		是より山田へ一リ半	三リ 田丸 右くまの道		三リ おほか	『浪華講道中記』
			ウ 扇や専蔵		ウ 柳や源治	
	山	宮	田		お	『浪花講定宿帳』
	田	川	丸		ふ	
		ば			か	
	二十丁	た	一リ	一リ半		
	宿	宿	宿		宿	
	有たきや喜右衛門	桔梗や太郎兵衛	大西や金五郎 熊野や饒右衛門	守や庄七	東や金介	

大阪から奈良・伊勢道

榎ノ木峠	大瀬	暗峠	豊浦	松原	高井田	深江	玉造	出典	
								宿場 地名	道 名
		くらかり峠 定宿 大和屋長右衛門		松原 定宿 兵庫屋八兵衛			玉造 定宿 四季屋伊兵衛	『東講商人鑑』（内題） 東講 安政二年九月刊 （『道中記集成』第四一巻所収）	
半リ 室木	半リ 大せ村	一リ くらがり峠 宿 こめや市兵衛 宿 大和や長右衛門		一リ 大坂より三リ 松原 宿 兵ごや八兵衛				『浪花講定宿控』（表紙） 浪花講 文久二年十二月再版 （奈良大学文学部史学科蔵）	大坂よりならはせいせ道
室木峠 休 つちや清八	小瀬 休 橋本忠兵衛	追分へ二リ くらがり峠 油や久右衛門	豊浦村 松や善七	くらがり峠へ五十丁 松原 河内や利兵衛	たかいた 藤や嘉兵衛	深江 休 本や友右衛門	松原へ三リ 玉造 休 米や源兵衛	『伊勢参詣道中附』（表紙） ときは講 年未詳 （天理参考館交通文化資料室蔵）	大坂より田丸越

	追分	尼ヶ辻	奈良	帯解	櫛本 (在原)	丹波市	柳本	三輪	慈恩寺
『東講商人鑑』	追分 定宿 角屋善九郎			定宿 吉のや文三郎		定宿 吉野屋弥市	定宿 さるや庄右衛門	定宿 竹田屋甚助 定宿 高田屋勘兵衛	
『浪花講定宿控』	追分 宿	尼ヶ辻 宿 かどや八郎兵衛	奈良 宿 小刀や善助 今みかど町 宿 つなや市兵衛 同丁池の南 宿 うをや佐兵衛	帯とけ 宿 よしのや文三郎	あり原 宿 角や藤九郎 宿 大黒や平兵衛	丹波市 宿 よしのや弥市	柳本 宿	みわ 大鳥居前角 宿 竹田や甚七	追分 西入口角 宿 角や重次郎
『伊勢参詣道中附』	奈良へ二リ 追分 奈良や十兵衛	尼ヶ辻 休 昆布や吉兵衛	帯とけへ一リ 奈良 小刀屋善介	丹波市へ二リ 帯とけ 橋屋小四郎	市の本 休 もぢりや喜七	丹波市 おけや藤助	柳本 猿や庄右衛門	はせへ二リ 三輪 竹田や甚七	慈恩寺村 休 魚や吉兵衛

名張	坂之下	鹿高	三本松	山辺	街道名	あを越え道	萩原	吉隠	初瀬	
なばり なばり 定宿 まち田屋武兵衛 定宿 小竹屋彦兵衛		かたか 定宿 いづゝや利兵衛	三本松 定宿 ぬしや藤右衛門	山べ 定宿 かぢや伊兵衛	大坂ヨリ大和奈良三輪長谷ヨリあを越伊勢参宮道		はい原 定宿 油屋三郎兵衛 定宿 あわ屋孫三郎		はせ 定宿 吉野屋平左衛門 定宿 木屋治郎兵衛	『東講商人鑑』
名張 宿 江戸や傳三郎	リ一 坂の下 休 たつみや治右衛門	片か 宿 油や文七	三本松 宿 及びすや清八	山べ 宿 かぢや伊兵衛	大坂よりならはせいせ道		はい原 宿 油や三郎兵衛 宿 あはや孫三郎	リ一 宿 扇子や又市郎	はせ 宿 よしのや平左衛門 札の辻	『浪花講定宿控』
名張 同所 しんでんへり半 小竹や彦兵衛 休 追分清藏		かだか 休 堺や清之丞	名張へり八丁 三本松 松や七兵衛	山辺 松や又兵衛	是よりあを越道分		赤ばねへり半 萩原 すくハ田丸越 左リハあを越	吉隠村 休 立場庄介	萩原へり半 長谷 玉屋新兵衛	『伊勢参詣道中附』

田尻	大仰	二本木	中ノ村	垣内	青山峠	伊勢路	阿保	七見峠	新田	追分	
	大の木 定宿 あぶらや新七	二本木 定宿 ましたや久右衛門		かいと 定宿 伊賀屋吉兵衛 かいと 定宿 井筒屋喜七	あを山とうげ 定宿 いが茶や三右衛門 あを山峠 定宿 いせ茶屋丹治	いせぢ 定宿 大和屋半左衛門	あを 定宿 森本久兵衛 あを 定宿 たはらや儀左衛門		新田 定宿 いづゝ屋孫左衛門		『東講商人鑑』
半リ たじり 宿 まつや利助	半リ 大の木	二本木 一リ 中ほど 宿 かどや和久右衛門	二リ かいと 宿 いがや吉兵衛	三 あを山 休 いが茶や又次郎 休 いせ茶や	いせぢ 大はしの角 宿 もみじや武左衛門	一リ あを 宿 ひしや善右衛門	半リ一 なゝみ	新でん 宿 ますや孫市 上野道あり	半リ一 立場		『浪花講定宿控』
<p>※ 本欄の伊勢路・あを山中は、原本ではあを山中・伊勢路の順であるが、本表では正しい順に並べかえた。</p>											
		はたへ二リ 二本木 徳田や平兵衛	二本木へ二リ 垣内 同 大和や孫左衛門 いがや吉兵衛	※ あを山中 休 いが茶や又次郎	※ 伊勢路 紅葉や武左衛門	いせぢへ二リ半 あを 儀や儀左衛門		あをへ一リ八丁 新田 大坂や孫太郎			『伊勢参詣道中附』

明星	金剛坂	稲木	櫛田	伊賀町	徳和坂	松阪	六軒	小川	八太	
明星 定宿 とミヤ半助 三田屋三郎兵衛			くし田 くし田 定宿 もミじや九兵衛 定宿 かわちや藤兵衛			松坂 日 <small>の町</small> 一丁目 定宿 大石屋喜兵衛 日 <small>の町</small> 一丁目 定宿 大和屋与兵衛	六けん 六けん 定宿 江戸屋五郎兵衛 六けん 定宿 小津屋喜右衛門	勢州四日市ヨリ太神宮参詣之道筋 小川 定宿 おのや才兵衛	はた 定宿 万屋利兵衛	『東講商人鑑』
半リ 明星 宿 三田や三郎兵衛			くし田 一リ半 宿 もみじや九郎兵衛 東川原 休 川口や忠兵衛			松坂 日 <small>の丁</small> 宿 中まぢ 宿 こめや甚右衛門	六けん 一リ 宿 おづや喜右衛門 土 <small>はしより二軒め</small> 参宮京江戸わかれ道あり	小川 宿 つゝみや大吉	はた 宿 あさひや藤助	『浪花講定宿控』
おばたへ一リ半 明星 三田や三郎兵衛			新茶やへ一リ半 櫛田 紅葉や九郎兵衛		とくハ坂 休 大黒や久兵衛	くし田へ一リ半 松坂 同 大和や与兵衛 大すかや喜兵衛	松坂へ一リ 六けん 田尻や文四郎	小川 休 をのや才兵衛	六けんへ一リ はた 朝日や藤助	『伊勢参詣道中附』

(宇治 内宮)	間の山	山田 (外宮)	堤世古	中川原	小俣	新茶屋	
		山田妙見町 定宿 山田妙見町 定宿 桔梗屋太郎兵衛			小ばた 定宿 小ばた 定宿 小林重兵衛 油屋三郎兵衛		『東講商人鑑』
内宮 宇治 御師 岩本太夫	五十丁あいの山	外山田 御師 成子太夫 妙見町 宿 桔梗や太郎兵衛 岡本丁 宿 いづみや半左衛門			おばた 宿 川はたや藤兵衛 一リ 宿 木や長兵衛	新茶や 一リ半 宿 いづみや吉右衛門	『浪花講定宿控』
				中川原 銭や弥兵衛	小俣 上村や弥右衛門	新茶や いつみや吉右衛門	『伊勢参詣道中附』

伊勢本街道（田丸越え）

	街道名	はせヨリ田丸越伊勢海道	『東講商人鑑』	
萩原		（大坂より大和奈良三輪長谷ヨリあを越伊勢参宮道の項に記載あり）	はい原 一リ半	宿 油や三郎兵衛
赤埴	赤ばね	定宿 松本重蔵	赤ばね 一リ半	宿 松本重蔵
石割峠				休 清水や市蔵
田口	田ぐち	定宿 たまや源蔵	田口 一リ半	山かす峠へ一リ半 宿 兜や治兵衛
山粕峠				休 八木や兵七
山粕	山かす	定宿 あら物や佐吉	山かす 一リ	桃の又へ一リ 山かす くら取坂あり 宿 松や善助
桃俣	もゝのまた	定宿 辻源兵衛	もゝのまた 一リ半	宿 つじや源兵衛
桜峠				宿のへ一リ半 桃の又 休 山城や松右衛門
菅野	すがの	定宿 いづゝや庄右衛門	すがの 一リ半	宿 いづゝや庄右衛門
神末	かう末	定宿 今西宗右衛門	かうすへ 一リ	神末へ一リ半 石な原へ一リ半 宿 今西惣右衛門 宿 神末 しんはや文吾
				大坂より田丸越
				『伊勢参詣道中附』

	石名原	奥津	銅坂峠	多気	櫃坂峠	仁柿	大石	津留	相可	池上	田丸	川端
『東講商人鑑』	おきつ おきつ 定宿 山本屋忠三郎 定宿 中北屋由兵衛			たけ たけ 定宿 かめ屋善藏		にがき にがき 定宿 をハリや新七	大石 大石 定宿 松屋半右衛門	つる つる 定宿 せんほくや宗兵衛	おふか おふか 定宿 東屋金助		田丸 田丸 定宿 守屋庄七	
『浪花講定宿控』	石名原 半リ 宿	おきつ おきつ 宿 中北や由兵衛 宿 山中や忠次郎	たげ たげ 宿 亀や善藏	ひつ坂 ひつ坂 宿 大坂や七郎右衛門	にがき にがき 宿 おふじや傳七 宿 おハリや新七	大石 大石 宿 まつや半右衛門	つる つる 宿 いづみや惣助	おふか おふか 宿 くるまや金助		田丸 田丸 宿 もりや庄七	川ばた 川ばた 宿 大西や金五郎 宿 くまのや儀右衛門	
『伊勢参詣道中附』	をきつへーリ 石名原 中子九右衛門	たけへーリ をきつ 紀国や儀兵衛	かい坂峠 かい坂峠 休 池田や清吉	にがきへーリ たげ 高橋十右衛門	ひつ坂峠 ひつ坂峠 下り斗 中村や文治郎	つるへーリ半 大石 つるの川船渡し 松や半右衛門	あふかへーリ半 つる 仙木や惣兵衛	田丸へーリ 相可 車や栄左衛門		川端柳へーリ 田丸 扇屋仙藏	外宮へ半リ 川端柳 丸や伊右衛門	

字 治	(山 外宮) 田	
		『東講商人鑑』
内 宮	外 宮 御師 成子大夫 宿 宿 いつみや半左衛門 宿 桔梗や太郎兵衛	『浪花講定宿控』
御師 岡本大夫	山田入口すじかい橋よりすぐ 外宮 御師 田中河井大夫 大世古町	『伊勢参詣道中附』

奈良から大和名所・高野道

郡山	西の京	唐招提寺	尼ヶ辻	菅原	西大寺	法華寺	奈良	宿場名		出典
								道	街	
郡山 半リ	西ノ京 十八丁	招提寺 三丁	尼ヶ辻 六丁	菅原天神 六丁	西大寺 十二丁	法花寺 十八丁	奈良	南あんどう下 たるい町 大黒や吉兵衛 今みかど町 魚や佐兵衛	現地名	『繁栄講道中記』（題箋） 繁栄講 安政三年十月序 （奈良大学文学部史学科蔵）
郡山 一リ							奈良	たるゐ丁 宿 小刀や善助 同 宿 いんばんや庄右衛門 今御かと 宿 綱や市兵衛 宿 うをや佐兵衛	奈良より大和名所高野山きみり越大坂迄	『浪花講定宿控』（表紙） 浪花講 文久二年十二月再版 （奈良大学文学部史学科蔵）
郡山 一リ	西の京 十五丁	正大寺 三丁	尼ヶ辻 六丁	菅原天神 八丁	西大寺 十二丁	法花寺 十八丁	奈良	○	ならヨリ大和七在所廻り 吉野高野大坂まで	『改正浪花講』（表紙） 浪花講 明治六年頃 （『道中記集成』第四四卷所収）

												小泉	『繁栄講道中記』
	多武峯	岡		飛鳥	阿部	八木	高田	当麻	下田	達磨寺	龍田	法隆寺	小泉
	四軒茶や 松や佐兵衛	多武峯 あびすや与次兵衛	岡 菜や源太郎	あすか きの国や善二郎	あへ きしだや長二郎	八木 木原や嘉右衛門	高田 辻や甚三郎	たへま 米や栄蔵	下田 かまや孫助	たるまじ すしや新蔵	龍田 オミヤ伊兵衛	法りうじ 大黒や鶴松	小泉
													『浪花講定宿控』
	多武峰	岡寺		あすか	阿へ	八木	高田	たへま寺	下田	たるまじ	立田	法りうじ	小泉
	四けん茶や 宿松や佐兵衛	宿くすりや源太郎	立花てら	休きの国や善次郎	宿角や安五郎	宿辻や甚三郎	宿玉や徳兵衛	宿釜や孫助	宿大こくや鶴松	明神鳥居まへ角 宿オミヤ伊兵衛	宿大こくや鶴松	小泉	
													『改正浪花講』
	多武のみね	岡寺		あすか	あへ	八木	高田	たへま	下田	だるまじ	たつた	法りうじ	小泉
	四軒茶や 木や五兵衛	くすりや源太郎		かどや安五郎	かどや安五郎	辻や甚三郎	米や栄蔵	米や茂兵衛	大文字や宇右衛門	かせや九助	小まつやいさ	小泉	

待乳	五条	宇野	三在	阿田	下瀧	土田	六田	吉野	上市	千股	滝畑	龍在	
	五条 おびや次郎兵衛		一リ さんざい かさや源兵衛	一リ 阿田 さかいや源七		一リ 土田 竹や岩吉	一リ 六田 柳や三郎兵衛	一リ よしの 金のとりあの上 ゆつや喜兵衛	廿五丁 上市 たゝみや与助		一リ 龍ノ畑 ふじや源兵衛		『繁栄講道中記』
一リ まつち	五条 宿 おびや治郎兵衛	一リ うの 宿 宿 かさや源兵衛		一リ あ田		一リ 土田 竹や岩吉	一リ むだ たつみや忠左衛門	四十丁 吉野 宿 福知や紋之丞	一リ 上市 宿 豊や与助				『浪花講定宿控』
一リ まつちとうげ	五条 ● 表や源蔵 此所より三けん茶やかむろへ下り舟あり	一リ うの ● かさや源兵衛		一リ 阿だ ● ふじや清四郎	一リ 下ぶち ● 柳や忠九郎	一リ つち田 ● 竹や岩吉	一リ む田 ● たつみや忠右衛門	一リ 吉野 ● たつみや長三郎	一リ 上市 ● くるまや平助	一リ ちまた ● 吉岡安次郎	一リ 龍の畑 ●	一リ 龍在 ● 戸や平右衛門	『改正浪花講』

高野山	神谷	河根	学文路	橋本	『繁栄講道中記』
高野山	かみや 五十丁	かね 五十丁	かむろ 五十丁	はし本 一リ 備前や五八	
	花や市兵衛	中や団次郎	大坂や平右衛門 米や才右衛門		
高野山	かみや 五十丁	かね 一リ	かむろ 一リ	はし本 一リ 宿 はたや儀兵衛	『浪花講定宿控』
高野山	宿坊 常喜院 高野山金剛峯寺	宿 大家孫兵衛	中ほど角 宿 こめや才右衛門		
高野山	かみや 一リ	かね 一リ	かむろ 一リ	はし本 一リ 三げん茶や	『改正浪花講』
	● はなや市兵衛	● ほていや権八	● 米や才右衛門	● ひぜんや五八	

大阪から南大和・高野道

春 日	古 市	現 場 名	出典	
			道	街
五十丁 かすが	古市	大阪より和州山上高野道	『浪花講道中記』（内題） 浪花講 天保八年十一月改正 （奈良大学文学部史学科蔵）	
商人ウ 角や市兵衛	ウイ 扇や利右衛門	日本はしより三十丁 河堀口	イ 元松や宗七	
		平野 四十丁	イ もちや久兵衛	
		川辺	川なべ	
		藤井寺	藤井寺 右門前 宿 わたや喜兵	
		道明寺天神宿坊一之室 古市へ二十丁	道明寺天満宮 こん田八まん宮	
		大坂	大坂 堺筋周防町火之見下 松屋源助	
		河内廻つば坂・奈良道	『浪花講定宿控』 浪花講 文久元年辛酉年改 （財団法人物流博物館蔵）	
八丁 かすが	古市	宿 扇や利右衛門	おむろ大黒 つぼ井戸八幡 つうほうじ 上の太子	
宿 角や市太郎				

吉野	六田	土田	戸毛	御所	新庄	竹ノ内	
吉野 一リ むだ川舟渡し賃一人前六文ヅ、 ウイ ふくら紋之丞	六田 一リ ウイ 糸や喜兵衛	土田 一リ四丁 ウイ 竹や岩松	戸毛 一リ ウイ もちや作兵衛	御所 一リ ウイ とさや喜兵衛	新庄 一リ ウイ わたや清兵衛	竹ノ内 四十五丁 竹の内 たへまへ八丁 ウイ 柳や藤七	『浪花講道中記』
吉の 宿 大門前 福知や紋之丞	六田 一リ 川有 宿 辰巳や忠左衛門	土田 一リ 宿 竹や岩松	戸毛 一リ四丁 ごせより一リ とうげ 宿 もちや作兵衛	御所 五せ 宿 とさや喜兵衛	新庄 一リ 宿 酢や清右衛門	竹ノ内 四十八丁 宿 柳や藤八	『浪花講道宿控』
	つぼ坂 岡寺へ出ルハ元のときへもどり 土佐より五十八丁 但しよしのとうの峰入つぼ坂より とうげをこへしその太子より六田	つぼ坂 岡寺へ出ルハ元のときへもどり 土佐より五十八丁	ごせより一リ 土さ 一リ半 宿 かみや佐兵衛	下ノ段つぼ坂道	つぼ坂道新庄へ一リ	岩谷越より四十八丁 たへま寺 大門前 宿 玉や徳兵衛	

『浪花講道中記』	子守 二十五丁 ウイ 宇田や清吉	愛染 二十五丁 ウイ 茶や万助	山上ヶ岳 峯中所々ニ出茶やあり 山上本堂 道かり銭一人前六銅ヅム 石南木ハ花主家ニてもとむ	一の瀬 道かり銭一人前三銅ヅム イ 茶や	洞川 ウイ 西浦清六	川戸 五十丁 岩本や利助	広橋 ふし拝ミ峠 二十丁 田中武右衛門	下市 五十丁 塩や喜八郎	阿田 一五五丁 ウイ 堺や源七	三在 一五五丁 ウイ えひや藤蔵
					とろ川より五条廻り高野道 どろ川より廿五丁 小南峠茶や 松の茶や					

高野山	神谷	河根	学文路		真土	五条	『浪花講道中記』
高野山 五十二丁 高野山女人堂	同上 かみや ウイ 大家孫兵衛	一リ かね ウイ 布袋や権八	一リ かむろ ウイ 玉や与次右衛門	八丁 三軒茶や 松や宗八	一リ まつち ウイ 中や藤兵衛	一リ 五条 ウイ 中や十五郎	